

東京海上グループ
CSR ブックレット
2013





私たちの仕事・活動の原点は
「人を思う。」ことです。

人を思い、
人に寄り添いながら、
安心と安全をお届けしていきます。

これからも、ずっと。

東京海上グループ

CSRブックレット2013

目次

〈表紙の花〉マングローブ

マングローブとは、熱帯・亜熱帯地方の海岸線や河口域に生い茂る植物群の総称で、マングローブと呼ばれる植物は、時に100種類以上ともいわれています。アフリカや中南米、アジア、南太平洋、そして国内では沖縄県内や鹿児島県内にも分布しています。表紙の白く可憐な花はミソハギ科のミズガンビ。伐採などでマングローブの森が減少している中、東京海上日動では地球温暖化防止、生態系保全など、そのさまざまな効果に注目し、アジアを中心に植林活動を行っています(P.26)。



1 社会を支える。

P 4

社会を支える活動

P 8

ぼうさい授業

2 人を思う。

P 12

損害サービス

P 14

マイクロ・インシュアランス

P 16

生命保険

3 いきいきと働く。

P 20

ダイバーシティ

P 22

シニア・グローバルリーダー研修

4 本業の、その先。

P 26

マングローブ植林活動

P 28

スペシャルオリンピックス支援

P 30

海外の地域・社会貢献活動

P 32

トップメッセージ

文中の所属・役職・肩書きなどは2013年6月現在のものです。

社会を支える。

会社概要 (2013年3月31日現在)

名称 | 東京海上ホールディングス株式会社

代表者 | 取締役社長 隅 修三

所在地 | 東京都千代田区丸の内1-2-1 東京海上日動ビル新館

設立日 | 2002年4月2日

資本金 | 1,500億円

事業概要 | 国内損害保険事業、国内生命保険事業、
海外保険事業、金融・一般事業従業員数 | 33,006名 (国内損保20,159名、国内生保2,284名、
海外保険9,075名、金融・一般1,488名)

社会のさまざまな場面で、
安心をお届けしています。

1
工場が火災に！
早く復旧したい……

5
お店が地震で休業状態に。
どうしよう……

6
海外で盗難に！
どこに連絡すればいい？

4
夜中に子どもが発熱。
近くに病院はあるかしら？

2
1日だけ車に乗りたい。
でもちょっと不安……

8
この地域で
メガソーラーを造りたい。
どんなリスクがある？

3
車いすのお客様がご来店。
安心してお買い物いただくために……

7
ご契約のしおり（約款）を
Web化したら
どんないいことがあるの？

自然災害の増加、少子高齢化、情報技術の進展、多様化する価値観……。私たちが暮らす社会は、常に変化しています。たまたに運転するその日だけ、自動車保険に入りたい。災害に遭った工場の操業を早く再開したい。メガソーラーを設置する際のリスクは……？ お客様のライフスタイルに合わせて、そして、社会の潜在的なリスクを予測し、保険を通して安心と安全を提供すること。それが、社会における東京海上グループの大切な役割と考えています。

*イラストの各商品・サービスの詳細はP6～7をご覧ください

6

個人



充実のサポートで「困った」を解決
海外旅行保険
海外総合サポートデスク

東京海上日動の海外旅行保険は、付帯のサポートが充実。「ケガ・病気の際のアシスタンスサービス」では、最寄りの病院やキャッシュレス提携病院の案内・予約、医療機関への支払い保障、ケガ人・病人の移送の手配など幅広くサポートし、「緊急医療相談サービス」では、急病やケガの対処法を専門家が電話でアドバイス。「トラベルプロテクト」では、財布が盗まれた時の現金の手配、「買い物中に誤って商品を壊してしまった」といったトラブル時の通訳サービスも行っています。世界中のどこからでも日本（東京）のサポートデスクが24時間年中無休、日本語でお応えします。

7

個人



未来に森を贈ります
「Green Gift」プロジェクト

保険のお申し込みの際、「ご契約のしおり（約款）」を冊子ではなく、ホームページで閲覧していただく（Web約款）方法を選択いただいた場合、新規ご契約1件につき、マングローブ2本の植林に相当する金額を、植林を行うNGOに寄付。地球環境保護、環境負荷軽減に取り組んでいます。



8

企業



設置から稼働後もサポート
メガソーラー・パッケージ・プログラム

2012年7月からの「太陽光発電・全量固定価格買い取り制度」の導入でメガソーラー（大規模な太陽光発電装置）の建設計画が急増する中、ビジネスを取り巻くリスクに対応したプログラムを提供。設置場所の土壌汚染調査、工事中の第三者への賠償責任、納期遅れによる損害、稼働後の自然災害による損害など、さまざまなリスクに対応しながら普及をサポートします。

7



2

個人

1日単位で申し込める自動車保険
ちょいのり保険

家族や友人の車を借りて運転する時の事故を補償する自動車保険。「運転する人」が対象で、保険料は1日500円から。1日単位で必要な日数分だけを携帯電話やスマートフォンからいつでも手軽にお申し込みいただけます。東京海上日動では「ちょいのり保険」の普及を通じて、無保険運転事故の縮減に貢献します。



4

個人

突然のケガや病気をサポート
メディカルアシスト

東京海上日動、あんしん生命などでは、ご契約者とそのご家族の健康を24時間365日、お電話を通じて無料でサポート。突然のケガや病気など緊急時の対処方法をはじめ、夜間・休日、旅先など状況や症状に応じて受診可能な医療機関を全国45万件のデータベースからご案内。コールセンターには経験豊富な救急専門医や看護師など高い専門性を持つ医療従事者が常駐し、30以上の診療分野ごとに相談が可能です。入院時の転院・移送もお手伝い。メディカルアシストを通じ、救急対応、医師不足など社会問題化する医療問題に役立てていきます。

5

企業

地震による休業損失も補償
超ビジネス保険
地震休業補償特約

中堅・中小企業のお客様が個別に手配されている火災保険・賠償責任保険をはじめ、財物、休業損害、労災事故などの事業活動に伴うさまざまなリスクをまとめて補償する「超ビジネス保険」を、2013年1月に全面刷新。大規模地震発生時の事業中断による休業損害を補償する特約を新設いたしました。事業所が所在する地域で震度6強以上の地震が発生し、建物・設備の損壊、電気・ガス・水道などの供給の中断、原材料の入手や商品の出荷が行えないなどの事象になり、事業活動が完全に休止した際に生じた休業損失に対し、損害保険金をお支払いします。



1

企業

事業の早期再開を支援
災害早期復旧サービス

事業所や工場の建物、機械・電気設備などが火災や自然災害で罹災した場合、新品交換ではなく修復することで操業再開までの時間が短縮されます。東京海上グループは世界最大級の災害復旧専門会社ペルフォア社と提携し、高度な技術とノウハウで企業の災害復旧を支援しています。

6



心配を安心に変え
暮らしと社会を支える
東京海上グループの
商品・サービス

3

企業

ホスピタリティあふれる人材を育成
「介助専門士」資格取得支援

少子高齢化により多くの企業でお客様に占める高齢者の割合が増えています。訪問介護事業などを手がける東京海上日動ベターライフサービスでは、NPO法人日本介助専門員推進協会と提携し、企業向けに「介助専門士」資格者養成講習を展開。資格取得を通して、高齢者や障がいのあるお客様の立場に立って販売・接客ができる人材の育成を支援しています。



手話で「こんにちは」。

長谷川 治
東京海上日動ベターライフサービス
営業部 課長
(介助専門士インストラクター)

介助専門士とは、相手の立場に立っておもてなしの心で接することができる人

超高齢社会が進む一方、介助の知識を得る機会も多くありません。例えば、あるお店に車いすのお客様が来訪された時の介助は、多くが自己流で行われていますが、その善意の対応が事故やケガにつながることもあります。

「介助専門士」資格者養成講習では、2日をかけて講義と実技、検定試験を行います。介助の基礎知識、車いすの介助や視聴覚障がいを持つ方への対応、手話や点字などを、受講生の業種に合わせて実践的な内容で提供しています。視界が限定されるゴーグルをかけるなど、高齢者や障がいのある方の身体感覚の疑似体験も特徴です。2012年には全国で約70回の講習を行い、自動車販売店や金融機関などで接客に関わる約1000人の方が資格を取得されました。

介助の知識と技術に加え、心得を身につけることで、相手の立場をより深く知り、考えられるようになります。それは、今を生きる私たちすべてに必要なホスピタリティです。高齢者や障がいのある方が安心して生活できる社会作りの一助になりたいと思っています。





本業の先の社会貢献として
社員が始めた「ぼうさい授業」。
子どもたちを守るために、
社会を守るために。

「登下校中に地震が起きたらどうする？」
講師の問いかけに、「塀から離れる！」「ラ
ンドセルで頭を守る！」と、教室のあちこち
から声があがりました。

2013年3月某日。東京都豊島区立豊成
小学校の5年生約50名に向けて、東京海上グ
ループの社員、代理店による「ぼうさい授業」
が行われました。

東日本大震災後、私たちは保険金のお支払
いだけでなく、企業の災害対応強化の支援、
産学連携による地震・津波リスク研究、社員
によるボランティア活動などさまざまなこと
に取り組んでいます。その中で、「本業で培っ
た経験や知識を子どもたちのために生かせな
いか」という思いから、有志の社員がボラン
ティアとして始めたのがぼうさい授業です。
社員や代理店が講師を務め、教材も手作りの
出前授業です。子どもたちが学校で学んだ防
災の話を家族とすることで、大人にも防災意
識が広がることを目指しています。



「津波が陸上選手のウサイン・ボルトよりも速い*ことがあるなんて！」「動画を見て地震の怖さが分かった」
「家族と避難場所を確認したい」など、子どもたちから多くの感想が寄せられました。

東京海上グループでは、2005年から地
球環境保護について学ぶ「みどりの授業」マ
ングローブ物語」を、全国の小学校・特別支
援学校で行っています。これまで、延べ18
00名以上の社員が講師を担当してきまし
た。この経験を生かし、ぼうさい授業も、グ
ループ全体の社会貢献活動として広げていま
す。2011年に試行的に始めて以来、今年
の3月までに約100名の社員が36校約24
00名の小学生に授業を実施しました。

授業では、地震のメカニズム、地震が起き
た時の行動、非常袋の備えなどについて、ク
イズや動画を交えて分かりやすく説明してい
ます。冒頭の豊成小学校・原田宏之教諭から
は、このようなコメントをいただきました。
「民間企業の授業を採用する決め手は、その
分野のプロとしての知識やノウハウなど、学
校教育ではなかなか伝えられないことを提供
してくれるところです。実際に被災地の現場
や状況をよくご存じである東京海上グルー
プの皆さんの授業は説得力があり、子どもたち
にとっても学びになったと思います」

参加した社員や代理店からは、「仕事と社
会とのつながりを再認識できた」という声
が多く寄せられています。安心と安全を提供
し、豊かな社会と経済の発展に貢献すること
は、保険という本業に限ったことではありません。
防災の啓発、社会貢献においても、私
たちだからこそできることを追求していきます。

* 2009年の世界陸上競技選手権ベルリン大会男子100mで世界新記録を出した時の最高速度約44km/h (ドイツ陸上競技連盟調べ)

損害保険会社の役割を実感。
社員としての決意も新たに。

土谷 友里
東京海上日動火災保険
資産運用第一部 主事

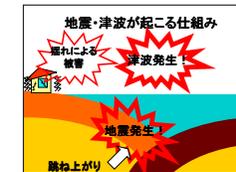


東日本大震災以降、ボランティアなど私にもお手伝いできることはないかと思いつつも、きっかけがつかめずもやもやと過ごしていたところ、ぼうさい授業の講師募集を知りました。ささやかながら社会の防災意識を高めるお手伝いができるだけでなく、自分にとっても勉強になること、また、1～2コマの授業をグループで担当するということが無理なく挑戦できそうだと思い、参加を決めました。

すでに小学校でも防災教育が行われていることもあり、正しい知識を持つ生徒が多く、感心しました。それでも、終了後のアンケートには「知らないことがあった」「知っているつもりだったが正しく理解できていなかった」などのコメントもあり、防災について繰り返し学び、考えることの必要性を感じました。正しい知識を身につけ、日ごろから防災意識を高めてもらうことが、いざという時の正しい判断につながります。今回の授業が、少しでもお役に立てばうれしく思います。

ぼうさい授業を通して、改めて社会における損害保険会社の役割、使命を強く意識しました。自分自身の防災意識を高め、本業に生かすためにも、またぜひ、参加したいと思えます。

社員手作りの教材を使い、
楽しく学べる授業を目指します。



ぼうさい授業では、代表的な災害である地震・津波をテーマに、スライド、動画、実験やクイズを交えながら分かりやすく解説しています。

〈授業例〉

- なぜ地震は起こるの？
地球の構造や、プレートがぶつかり地震や津波が発生する仕組みをイラストで説明します。
- 地震が起こるとどうなるの？
物が落下するなど直接的な被害だけでなく、インフラが影響を受ける仕組みなどを説明します。
- 地震の時、どうすればいい？
学校や自宅で1人の時に地震に遭った場合にどうすればよいか、クイズ形式で考えてもらいます。

あしたの笑顔のために ～防災・減災情報サイト～



東京海上日動では東日本大震災の教訓を踏まえ、「多くの方が防災・減災の知識を身につけ、考えるきっかけに」との思いから、Webサイトを開設しました。自然災害の発生メカニズムや災害が起こった時の行動、事前に備えておくべきことなどを、ご家族で楽しみながら学べるサイトです。

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/protect/egao/>
(監修：東北大学災害科学国際研究所寄附研究部門)

お客様を思い、守ること。
それは、これから出会う
お客様をも守ること。

2

人を思う。

心からお客様を思うこと。

—社員が思いを共有する小冊子『ころから。』



「大丈夫ですよ。ご安心ください」
事故に遭われたお客様にお伝えする言葉です。

お客様にとっては、一生に一度、あるかないかの事故。不安を抱えている方、一刻も早く安心をお届けするため、東京海上グループでは代理店と損害サービス部門の担当者を中心に、高い専門性を持つ弁護士や医師など、さまざまなエキスパートが「チーム」としてお客様を支える体制を整えています。

一人の人間として、お客様の支えとなること。お客様が抱えている思いや問題をいち早くくくみとり、事故対応のプロとしてサービスを提供し、お客様をお支えすること。それが損害サービスの本質であり、私たちの役割です。

役割を全うするためには、すべての担当者がお客様の立場に立って、その

思いを感じ、考えながら、専門性を高めていくことが大切です。

しかし、私たちはどれだけお客様の思いを知っているだろうか。いつの間にか、知っているつもりになっていないだろうか——。

「お客様を思う」という損害サービスの原点に立ち戻り、私たちが大切にしたい思いや価値観をまとめたものが小冊子『ころから。』です。新入社員を含め、損害サービスに携わるすべての担当者に配布し、共通する思いや専門性の追求、献身、仲間との調和といった、大切にしていきたい価値観を共有しています。

「ありがとう」
この言葉をいただけることが、私たちにとっての宝物です。

お客様にご安心いただくために、『ころから。』の思いを胸に刻みながら、社員一人ひとりの「人を思う。」心を育て、東京海上グループのDNAである損害サービスの意義や誇りを受け継いでいきます。

『ころから。』

損害サービスに関わる数千人の社員へのアンケートやヒアリングをもとに制作されました。日本語版に加えて、現在は英語版、中国語版もあり、世界のグループ会社の担当者に共有されています。

小林 良平

東京海上日動火災保険

東京自動車損害サービス部

課長代理



損害サービスの使命は
保険のプロとして、
「困っている人をお助けする」こと。

入社以来、損害サービス業務に携わってきました。振り返ると、忘れられないできごとばかりです。新人のころ、バイク事故で重傷を負われた方を、ご家族と一緒にサポーターさせていただいたこと。赴任先で局地的な竜巻が起り、大きな被害に見舞われながらも、保険金のお支払いのために奔走するうちに町がたくましく復興したこと。そして、一昨年の東日本大震災……。

この仕事はまさに最前線で、お客様の声をお聞きする立場でもあります。難しい局面や交渉を乗り越えた先にいただいた、お客様からの「ありがとう」という言葉。それは、何物にも代えがたい言葉です。

小冊子『ころから。』は、いつも鞆に入れてあります。たまに開くと、そこにつづられている思いやエピソードが、その時々自分に響きます。

「上司が子どもに『お父さんの仕事は人助けだよ』と言っているのを聞いて、なんだかとても嬉しかった」

ある時、ページをめくるとこの文章が目に残りました。私も子どもを持つ身として、同じように胸を張って言えるような仕事をしたいと、改めて実感しました。

『ころから。』には、少し気恥ずかしくなるような言葉もありますが、そういった言葉もまっすぐに「大切だ」と言える、それだけ社会に対して誠実なところが、私たちの会社のいいところだと自負しています。

「困っている人をお助けすること」

これは東京海上グループの、そして損害保険の役割であり、使命です。

事故に遭われた方はさまざまな思いを抱えています。お客様の立場に立ってその思いを感じ、お客様に寄り添いながら誠実に対応し、期待される役割を果たす。それは、人としての引き出しがないとできません。お客様に心から「お願いしてよかった」と思っていただけるように、私自身の人間力を高めながら、日々研さんを積んでいきたいと思えます。



いつも持ち歩いている冊子。「仕事で迷いが生じた時に、損害サービスの原点を再確認できます」



K. Gopinath

IFFCO-TOKIO
General Insurance Co. Ltd.
Head (Rural and Co-operatives)

本当に必要とされている保険は、
人を、国を支える保険。

2004年から提供を開始した天候保険は、インドの現地気象局から気象情報データが直接当社に報告される仕組みとなっており、当社がご加入者（農家）に対して、保険金の請求から保険金支払いまでを行うことから、「円滑で分かりやすい仕組み」として、高く評価をいただいています。

また、2008年から開始した損害保険では、インド各地域の農業協同組合や銀行と提携し、店頭で設置したポスターやリーフレットを通じて消費者教育や認知徹底に努めてきました。最近ではSMS（ショートメッセージサービス）も活用し、商品に関する情報を発信しています。

ある日雇い労働者の父親は、子どもが病気になり入院する事態となりましたが、低所得者向けの医療保険（Rashtriya Swasthya Bima Yojna）にご加入いただいていたことから、医療費・入院費にかかる保険金の支払いを受けることができました。この父親から、「保険がなければ、私の息子の一生を台無しにしていた」と感謝のメッセージが届いたことは、とても印象に残っています。

私たちは、「もっと保険を知ってもらい、より利用が増えることで、人を、国を支えることに貢献したい」と思います。質の高い商品・サービスを作り上げるためのノウハウ、企業との関係、リスクアプローチなど、東京海上グループには私たちが学ぶことが非常に多くあります。その思いや姿勢を受け継ぎながら、農家のニーズに合わせた保険商品の開発と普及に努めていきます。



農村への保険金支払いの様子。



インドの農家のために、
現地のリスクに対応する
保険を提供しています。

インドでは、就業人口の約50%が農家といわれ、GDPの約14%を占める農業は同国経済にとって重要な産業です。また、全世界の約20%を低所得者（年収約13万円以下）が占め、その多くが小規模で営む農家といわれています。しかし、灌漑が普及している地域はいまだ3割に満たず、農業用水のほとんどを雨水に頼っているため、干ばつによる降雨量の減少や多雨で農業生産量が減少すると、農家が深刻な経済ダメージを受ける可能性があります。

東京海上グループは、2001年にインド最大の肥料公社であるIFFCOと合併で損害保険会社IFFCO-TOKIOを設立し、自動車保険・火災保険などの提供を開始。インドの農家の方々の生活の不安を、保険の仕組みで解消できないかという課題と向き合い、天候保険やマイクロ・インシュアランス（低価格で加入できる保険）の開発を検討してきました。

2001年からインドの農村地域において、肥料に付帯した低価格（年間1ルピー＝約2円）で加入できる傷害保険（Sankatharan Bima Yojna）や、年間100ルピー（約200円）で加入できる財産保険（Janta Bima Yojna）、農村

地域の女性向け傷害保険（Mahila Suraksha Bima Yojna）などのマイクロ・インシュアランスを販売してきました。2011年からは、低所得者向けの医療保険（Rashtriya Swasthya Bima Yojna）を販売し、約124万世帯の農村の方々に提供しています。

また、モンスーン期（6～9月の雨期）やラビ期（10～4月の乾期）の天候不順による農村地域の穀物収穫高への影響を考慮したインデックス型天候保険（Barish Bima Yojna/Mausam Bima Yojna）も提供。これは、IFFCOの現地農家への市場調査力と東京海上グループの保険引受のノウハウを生かし、インド各地の降水量や温度などの天候リスクを評価して、革新的な商品開発を実現したものです。天候保険の仕組みを理解してもらうため、各州の銀行・NGOなどのパートナーと農家への説明会を重ね、現在では年間約140万世帯に販売しています。

東京海上グループでは、今後も保険を必要としている方々にマイクロ・インシュアランスや天候保険を提供し、農家の生活基盤と食糧の安定供給への貢献に挑戦していきます。

* IFFCO-TOKIO General Insurance Co. Ltd.



新たなリスクに着目し、
現代を生きるお客様に必要な
生命保険をご提供します。

医療技術の進歩で平均寿命が伸びている現代。しかし、健康なまま長生きできるとは限りません。例えば、退院後、在宅療養やリハビリで就業不能となったり、後遺症が残る要介護認定を受けることがあるかもしれません。そこで生じるのは、生活への不安。それは、従来の医療保険などではカバーできない「保障の空白領域」でした。

東京海上日動あんしん生命は、この空白領域に備える必要性を広くお伝えするために、2007年からの「お客様をがんからお守りする運動」をさらに進め、2012年11月から「生存保障革命」として新たな取り組みを始めました。お客様の退院後の暮らし、生活習慣病後の就業不能期間や介護による経済的負担などをさまざまな形でサ

ポートします。

中でも「メディカルKit R」は、新しいコンセプトの医療保険です。

将来の健康は不安だけど、今は元気で、掛け捨てはもったいない——。ある調査では、医療保険への加入をためらわれる20〜40代の方が一定数いらっしゃいました。こうした思いにお応えするため生まれた「メディカルKit R」は、健康なら、お払い込みいただいた保険料をお返しする保険として、2013年1月の発売以降、多くのお申し込みをいただいています。時代や社会課題の変化とともに生まれるリスクを広く啓発し、お客様をお守りすることが私たちの使命です。会社と向き合いながら、商品・サービスの提供に取り組んでいきます。



「退院してからも暮らしがある」
今を生きる人に必要な生命保険

〈生存保障革命〉

通院やリハビリなど、今までの「医療保障」と「死亡保障」ではカバーできない「保障の空白領域」に着目し、使われなかった保険料をお戻りする「メディカルKit R」をはじめ、介護の保障も一生涯の「長生き支援終身」、介護や5疾病による就業不能となった方の治療費や生活費をサポートする「家計保障定期保険・就業不能保障プラン」など、健康・収入面で安心して暮らすための保障をご用意しています。



健康なら、払った保険料が戻ってくる！
新しいカタチの医療保険

〈メディカルKit R〉

一定年齢までに入院給付金などのお受け取りがない場合、お払い込みいただいた保険料を全額、健康還付給付金としてお戻りする医療保険。お受け取りがあった場合でも、差額をお戻しします。その後も加入時の保険料は変わらず、保障は一生継続。保険料負担を抑えつつ、一定年齢までにお払い込みいただいた保険料をお戻りする業界初（2012年12月あんしん生命調べ）の医療保険として、多くのお客様にご加入いただいています。



澤田 正俊

東京海上日動あんしん生命保険
企画部 商品室 開発グループ 担当課長

ストーリーがなければ
いい保険は生まれません。
保険を通じた社会貢献を。

「これはすごい」。どよめきが、1分は続いたでしょうか。「生存保障革命」の一つである「メディカルKit R」を試作段階で消費者モニターの方々に見ていただいた時のことです。その反応に手応えを感じました。「将来の備えのために必要だけど、今から医療保険の掛け金を払い続けるのがつらい」。ある30代の方からのご意見を聞いた時、もっと積極的に加入できる保険があるべきではと感じました。そんな思いから企画したこの商品は、お客様に将来の健康還付給付金の受け取りを楽しみにしていただくことで、ご自身の健康増進の励みにしていただくこともできます。手前みそですが、「お客様本位」を大切に作る当社らしい画期的な保険です。私たちに、「ただ売れる商品を作る」という発想はありません。最初にお客様への思いとストーリーがあり、そこから商品が生まれます。時代や社会の流れとともに変化するリスク、お客様が気づかれないリスクをいち早くキャッチし、保険を通じてお客様を支えることが私たちの使命であり、それが社会への貢献になると思っています。生命保険業界の「チャレンジャー」として、これからもお客様の支えとなる商品を提供していきます。



若松 俊之

東京海上日動あんしん生命保険

企画部 課長代理

「保険人」*として
既存の枠にとられない
商品を提供します。

私は、保険料を計算する業務を担当しています。「メディカルKitR」の商品案を聞いた時、商品化するための保険料の計算方法が思い浮かばず、また、参考にできる前例もなかったことから、先の見えないトンネルに足を踏み入れているような気分でした。しかし、この商品には「これを何とか世に出して、多くのお客様にご案内したい」という、たくさんの社員の強い情熱が込められていました。私もあんしん生命の「保険人」の一人として、「この商品の開発は何としてもやり遂げる」という不転の決意でさまざまな試行錯誤を繰り返し、新たな保険料の計算方法を見いだしました。

「メディカルKitR」は、社員一丸となって、何とか商品化にこぎつけることができた保険です。

発売後、多くのお客様から「このような商品待っていた」というお褒めの言葉をいただくことができ、今は商品化できたことに大きな充実感を感じています。

この経験を糧に、これからも既存の枠にとられることなく、お客様にご支持いただけるあんしん生命の商品を提供していきたいと思えます。

思いを形にできるように。
「あなたでよかった」と
言っていたただけるように。

3

い き い き と 働 く 。

人事制度を改革し、
役割変革に挑み、
女性の活躍を推進。
組織力の最大化を
目指します。

東京海上日動では、ダイバーシティ（多様な働き方を支援し、個々の能力を生かす取り組み）の一環として、2002年以降、女性の活躍推進への取り組みに注力してきました。

人事制度の改革を通して、女性社員のキャリア意識向上を図るとともに、2006年からは短時間勤務制度など、キャリアアップを目指す女性社員を支える制度面の整備充実に取り組んでいます。

しかし、現場の改革なくして女性の真の活躍を実現することはできません。2008年には、商品、サービス、契約事務、事故時の対応といったすべての業務プロセスを根本的にシンプ

ル、スピーディ、快適なものとする「抜本改革」を実現。業務における新たな時間を創出しました。同時に、例えば、「営業は男性、事務は女性」など、固定的なイメージのあった役割の見直しを行い、個々の強みを生かした「役割変革」にも挑戦しました。これにより、女性の営業職が大幅に増加。また、女性役員・リーダー（部長・課長職）の数も年々増加しています。今後も女性社員一人ひとりが挑戦し、活躍できるステージを広げ、「役割変革」を進化させながら、組織力の最大化を目指していきます。

女性社員を支える主な仕組み

《育児フルサポート8つのパッケージ》
産前・産後休暇、育児休業、短時間勤務、復職支援、提携託児所の費用補助など、充実のサポート制度。

《JOBリクエスト（Iターン・Uターン異動）》
地域型従業員を対象に、配偶者の転勤先へ勤務エリアを変更できる「Iターン」、キャリアアップのために一定期間、勤務エリアを変更する「Uターン」と、社員が自ら役割や仕事を選択できる社内応募制度。
*応募者全員にエリア変更が認められるわけではありません。

《役割チャレンジ制度》
上司と部下で年数回の面接を実施し、キャリアビジョンや本人の強み・弱みを共有し、本人の成長に資する役割付与を行う制度。

《TOKIO MARINE FORUM》
各職場の代表者を集め、女性のみならず、全社員が活躍できる企業風土を醸成し、キャリアビジョンや組織力の向上を考える場。講演会なども開催。



山下 真粧子

東京海上日動火災保険 コマーシャル損害部

国際物流第一グループ グループリーダー

保険会社は人間力が大事。
いきいきと働くことが
社会貢献につながります。

女性社員を支える人事制度の整備以降、出産などで退社する女性社員はだいぶんと減ったと感じています。私も出産・育児を経験し、仕事と育児を両立するための環境を整えながら、働いてきました。

今、企業の輸出入における損害サービスを担当するグループでリーダーをしています。グループの6割は女性です。女性ならではのきめ細かな気づきなどが、損害サービ스에反映されていると思っています。

グループではウズベキスタン出身のメンバーもおり、異なる文化で育ったメンバーが多様化しています。社員だけでなく、多くの優秀な社員がそれぞれの個性を生かして、力を存分に発揮しています。メンバーの日々の成長が、私にとって大きな喜びです。

保険という形のない商品を扱う私たちの会社は、人であり立っています。社員一人ひとりがいきいきと働くことができると感じています。

役割変革を通して
キャリアアップし、
社会に役立つ仕事を。

溝口 香織

東京海上日動火災保険 横浜中央支店

副主事

これまでに2度、育児休業を取得しました。休業中も自宅からメールをチェックでき、業務に関して定期的な連絡があるなど、復職支援制度のおかげで職場復帰がスムーズでした。現在は、「短時間勤務制度」を利用しています。

1度目の復職の際には、「役割変革」に伴い、「お客様や代理店を訪問する営業」を担当することになりました。最初は戸惑いましたが、直接、お客様や代理店と接する機会が増えたことで視野も広がり、何気ない会話の中で相手のニーズを知る機会も生まれました。新たな役割に挑戦すること、私自身のスキルもキャリアも確実に広がっています。

社員を支える制度が充実しており、会社が社員のキャリアビジョンの実現に協力してくれていると感じています。制度を利用することが目的ではなく、制度を利用して、より成果につながる仕事をし、少しでも社会に貢献していきたいと思っています。



被災地訪問を通じて、「世のため人のため」の精神をグローバルで共有しています。

東京海上グループは、世界トップクラスの保険グループを目指し、事業を展開しています。世界各地のグループ会社スタッフは約3万人になります。海外で事業展開する中で重要となるのは、世界中のメンバーと企業理念や共通の価値観を共有することです。その一環として、2012年から海外の経営幹部を養成する「シニア・グローバルリーダー研修」を実施しています。2013年3月に日本で行った研修には、米国フィラデルフィア社、デルファイ社、英国キルン社など、世界各地から13名が参加しました。5日間のプログラムの中で、東京海上グループの企業理念を深く理解することを主な目的としたのが「東北セッション」です。同セッションでは、東日本震災の被災地にある東京海上日動の代理店や社員から震災当時の話を聞き、議論をするともに、被災地の

現場の視察も行いました。岩手県大船渡市の代理店・株式会社谷地保険事務所の榎原昌宏社長や東京海上日動仙台支店社員らとの対話では、震災の混乱の中で、お客様に保険金を迅速にお支払いするため、復旧支援や保険金の支払い体制をどのように行ったかなどについて、本音の議論が交わされ、活発な意見交換が行われました。また、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦教授からは、東日本大震災の発生メカニズムや津波リスクの評価手法などについて講義を受け、その後、被災地を訪問。防潮林による防災対策について学びながらも、いまだ津波の爪あとが残る現場を、参加者は言葉少なに見つめていました。「1日も早く、被災された方に保険金をお支払いしたい。そして、安心していただきたい。それだけでした」榎原社長の言葉は、あの日、あの時、代理店と全社員が共有していた思いです。混乱の中、代理店と社員が一体となって、2カ月で多くのお支払いをできたことに、参加者は「保険会社の存

在意義を深く意識した」「東京海上グループの一員であることに誇りを感じた」という思いを感動の涙とともに語りました。「保険を通じて『世のため人のため』にお役に立ちたい」。この思いは、世界のどこであっても変わりはありません。東京海上グループが大切にしたい思いを世界中の社員・スタッフと共有し、グローバルリーダーの育成を推進していきます。



東北セッション

東北大学
災害科学国際研究所

(宮城県仙台市)

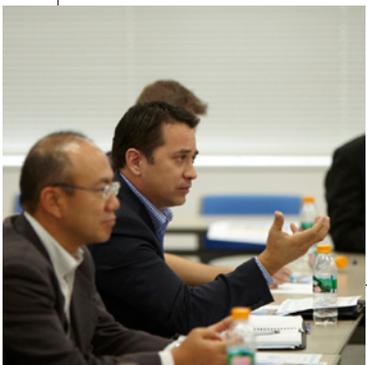
日本の災害科学研究の第一人者である今村文彦教授より、津波の解析データ、浸水範囲などを踏まえ、地震・津波リスク評価実施による予防防災・減災・免災システムについて講義していただきました。



東京海上日動
仙台支店

(宮城県仙台市)

震災当時在籍していた社員から、震災時におけるオフィスの復旧、保険金支払い体制の整備、代理店への支援などについて発表した後、有事におけるマネジメントのあり方などについての活発な質疑応答・意見交換が行われました。



谷地保険事務所

(岩手県大船渡市)

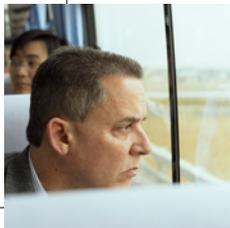
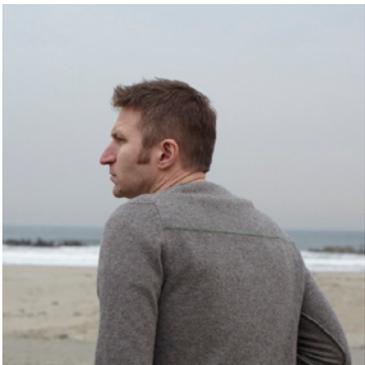
東京海上日動の代理店である同社とのセッションでは、榎原昌宏社長から、事務所が倒壊する中、震災後2カ月弱で保険金のお支払いを終えるまでの状況をお話いただきました。



仙台平野視察

(宮城県仙台市若林区)

10mを超える津波が押し寄せた荒浜地区を中心に視察。住宅が流されたあと、なぎ倒されたままの木々など、死者数百人が確認された当時の壊滅的な状態がうかがえる光景に、言葉少なに見つめる参加者の姿が印象的でした。



日本で、世界各地で。
 広がり続ける
 本業の先の社会貢献。

4

本業の、その先。



今もがれきが残り荒涼としている仙台市・荒浜海岸。あの日、荒浜を襲った津波は、犠牲者慰霊のために建立された荒浜観音像の高さ以上になるものもありました。

シニア・グローバルリーダー研修 「東北セッション」参加者コメント

東北への訪問を実施いただき感謝している。この悲しみの深さや被害の大きさは、実際に被災地を見て、被災された方のお話を聞かなければ理解することはできなかった。

谷地保険事務所・榊原社長のプレゼンは心を揺さぶるものであった。私に、「我々の会社は何のために存在しているのか」という問いを思い出させてくれた。この経験やメッセージを、自分の会社に持ち帰り伝えたい。

ご自身も家族・親戚・友人を亡くしているにもかかわらず、何よりもお客様のために行動していた現場の皆さんの姿勢が衝撃的だった。あのような状況であっても、皆が強い使命感と目的を共有していた。

上からの指示や、誰かに期待されているからではなく、「正しい行いをする」という、皆さん自身の中から湧き出る思いで行動していたことが深く心に残った。

我々の仕事は、人々の人生や生活を変えるものである。我々は被災地や人々の復興に経済的に大きな影響を与え、子どもたちに将来の希望を与えることができる。それは、我々が保険業界として、会社として行う「Good」、すなわち、よい行いである。

今回感じたことを、私は生涯、語り続けるだろう。皆さんが、非常に困難な状況の中で成し遂げたことに、心から感動した。今、ここにいる参加者が感じているのと同じように、このできごとから多くのことを学ばないといけない。東京海上グループ全体として、この気づきを日々の行動・業務に生かしていきたい。

これ以上ないくらいの経験、一生忘れられない経験をさせていただき、感謝している。東北では、「人々に少しでもお役に立ちたい」という使命を持ち、自身も悲劇的な状況の中でお客様を救った代理店の方にお会いし、お話を聞くことができた。

マングローブ植林事業

世界中で広がる植林活動。
現地NGOと協働しています。

東京海上日動は、1999年からマングローブ植林事業を開始しました。現在はNGOであるマングローブ植林行動計画 (ACTMANG)、公益財団法人オイスカ、国際マングローブ生態系協会 (ISME) をパートナーとして、各国で植林活動に取り組んでいます。

植林活動実施国：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、ベトナム、インド、パングラデシュ、フィジー（順不同）

2003年

マングローブ植林面積 ▶ 3,443 ha

マングローブによる ▶ 1,900t-CO₂
CO₂吸収・固定量 (*)

マングローブは、二酸化炭素 (CO₂) を吸収し、炭素を蓄えて酸素を排出する作用が旺盛で、地球温暖化防止に効果があるといわれています。

* CO₂ 吸収・固定量の算定は、第三者機関 (新日本サステナビリティ株式会社) による検証を受けています。

Before: 1999

森がなくなり、
水害が多発していました。



ベトナム北部の港湾都市・ハイフォン市のティエンランにはかつて、大きなマングローブの森がありましたが、森林伐採などで「みどりの防波堤」が消え、人々は台風や高波による水害に悩まされていました。

ベトナム ハイフォン市ティエンラン



2010年

6,823 ha

58,000t-CO₂

2007年

4,955 ha

29,000t-CO₂

After: 2010

大きな海の森が広がりました。



東京海上日動では、現地の植林実施団体とともに1999年から植林活動を開始。小さな苗は、現在では大きな海の森となりました。豊かな森を取り戻すため、これからも植林を続けていきます。

マングローブ植林活動

2012年

7,993 ha

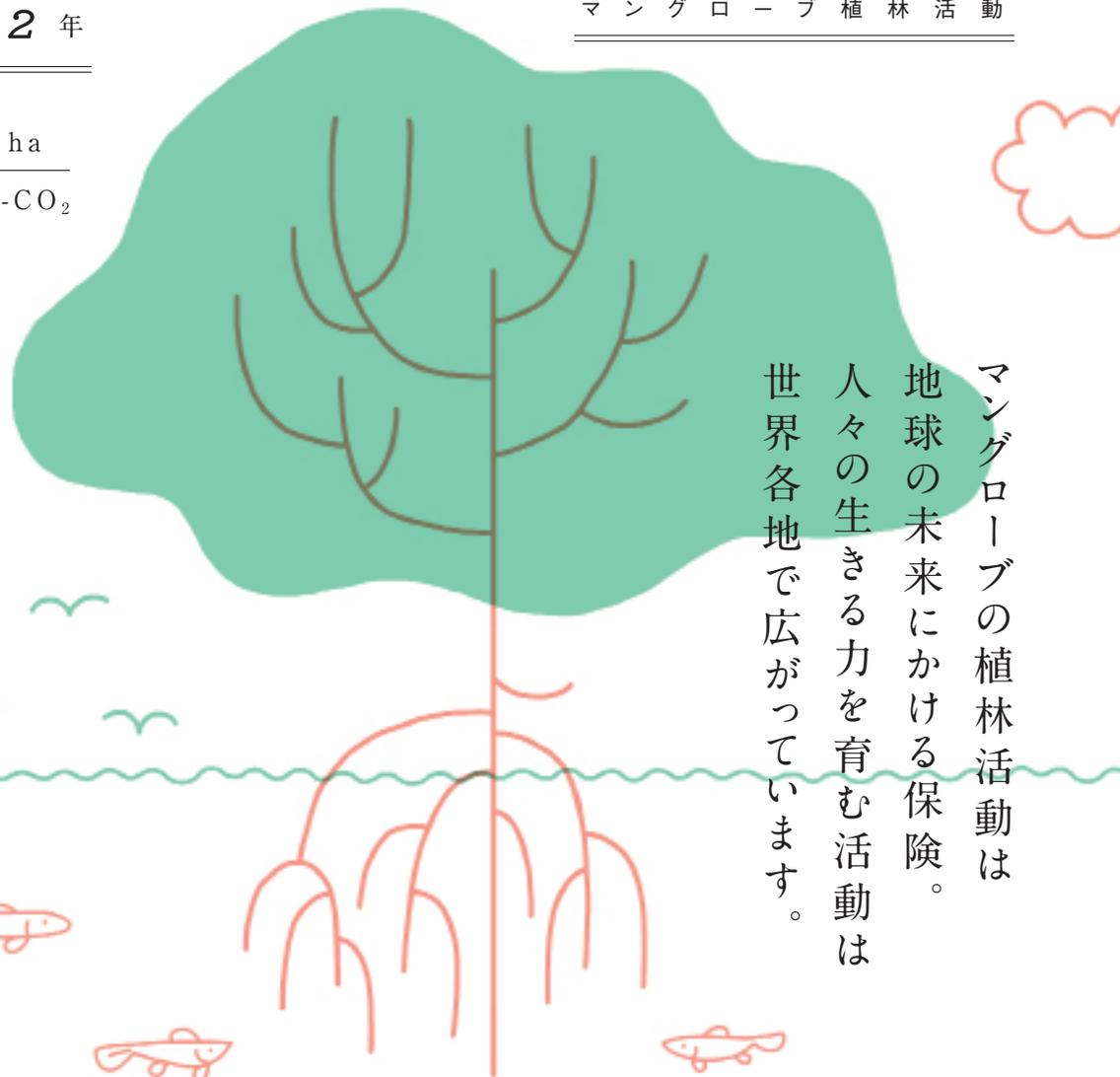
84,000t-CO₂

マングローブの植林活動は地球の未来にかける保険。人々の生きる力を育む活動は世界各地で広がっています。

「環境に関することで長く続けられることを」という社員の声から始まったマングローブの植林活動は、今年で15年目を迎えました。ふだんの植林はNGOと現地の人々によって行われていますが、年に一度、世界各地から東京海上グループの社員、代理店やその家族もボランティアとして植林活動に参加しています。

活動を始めて以来、私たちは「地球温暖化の防止・軽減」や生きものたちの「命のゆりかご」としての役割など、マングローブの森のさまざまな効果を実感しています。

2004年に発生したインド洋大津波では、マングローブが「みどりの防波堤」となり、人々の生活を守ったと聞きます。また、その経済効果も注目されています。マングローブの森には魚や小動物が集まり、豊かな生態系が生まれます。魚が増えれば漁をし収入を得ることができ、森・水産資源に乏しかった土地は植林によって豊かになり、人々の暮らしを支えることにつながります。現地の人々から「暮らしが豊かになった」という声が寄せられるたびに、植林活動の先の先を考えると、このコミットメントを東京海上日動は実践していきます。



共に支え合う社会のために。

松本 研太郎
東京海上日動火災保険
福島自動車営業部 課長代理



福島での冬季ナショナルゲームに参加しました。ボランティアでは役割は付与されませんが、そのやり方は一任されることが多いため、自らアスリートのことを思い、考えて行動します。アスリートの方々が笑顔で、一生懸命に競技に取り組む姿を見て、少しでも役に立てたかなと思うようになりました。

先日、自分の家族がボランティアの方のお世話になった時、感謝の気持ちで一杯になりました。お互いが支え合う社会は本当に素晴らしいと実感しました。近年、社内でも社会貢献への意識が高まっています。私も今まで以上に社会貢献活動に参加していきたいと強く思います。

S P E C I A L O L Y M P I C S

スポーツを通じて
知的障がい者の自立と
社会参加を応援しています。



知的障がい者のスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じ提供する国際的スポーツ組織。4年ごとの夏季・冬季の世界大会をはじめ、国内大会も開催しています。運営はボランティアと善意の寄付により行われています。

スペシャルオリンピックス支援

障がいの有無にかかわらず、豊かな生活が送れる社会を目指し支援活動を行っています。

2005年に知的障がいのある人たちによるスポーツの祭典「スペシャルオリンピックス」の冬季世界大会が長野県で開催されました。この時、東京海上日動長野支店が大会開催を支援し、多くの社員が運営ボランティアとして参加。以来、東京海上日動では(公財)スペシャルオリンピックス日本の「障がいの有無にかかわらず、互いの違いを理解し尊重し認め合うこと、共に育ち、共に生きる社会を実現する」という考えに共感し、「公式スポンサー」として支援を行っています。

2012年2月に開催された冬季ナショナルゲーム・福島には、福島県に勤務する社員を中心に延べ70名がボランティアとして運営サポートなどに参加しました。

東京海上グループは、誰もが安心・安全に暮らせる社会の実現を目指しています。障がいを持つ方々が豊かな生活を送れるよう、今後も支援を続けていきます。

応援する人も、される人も
元気づけられる活動です。



有森 裕子さん

元マラソンランナー

(公財)スペシャルオリンピックス日本 理事長

1966年岡山県生まれ。バルセロナ、アトランタオリンピックの女子マラソンで2大会連続メダル獲得。2007年に現役引退後、スポーツの世界を中心に幅広く活躍中。

2014年にスペシャルオリンピックス日本は設立20周年を迎え、福岡県にて夏季ナショナルゲームの開催を予定しています。スペシャルオリンピックス・ムーブメントのさらなる拡大に向けて、引き続き、多くの方からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

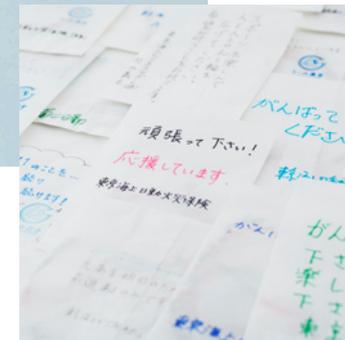
日ごろより、東京海上グループ社員の皆様には、あたたかいご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

ナショナルゲームのボランティアや「エール募金」のミサンガ作り、そして、東京海上フィルハーモニックオーケストラ定期演奏会での募金など多岐にわたるサポートは、知的障がいのあるアスリートたちの笑顔につながっています。

スペシャルオリンピックスは、アスリートたちがスポーツを通して生きがいを感じ、彼らの生活の質を豊かにするだけでなく、応援していたはずの人まで元気づけられる活動であると思っています。



アスリートを支える「エール募金」に募金した方には、アスリートと募金者(=支援者)をつなぐミサンガが届けられます。東京海上グループでは社員がボランティアでミサンガ作りに参加。2013年3月11日にはミサンガを入れる封筒に応援メッセージを書いて、東日本大震災被災地のアスリートへ届けました。



テーマは「青少年育成」
 「安心と安全」「地球環境保護」。
 海外でも積極的に
 地域・社会貢献活動を
 行っています。



米国
 Philadelphia Insurance Companies

入院しているお子さんと
 そのご家族への支援活動

創業50周年記念行事の一環として、自宅以外での病気療養が必要となった子どもや、その家族が滞在できる施設を提供する団体「Ronald McDonald House Charities」を支援するチャリティイベントを実施。331名の社員が、ハウスに滞在する家族への食事の提供や自動車の洗車、ジェット機の牽引・収集活動など、自ら企画した楽しいイベントによる募金活動をはじめとする、550時間のボランティア活動に従事。集められた約41万ドルの寄付金は、60カ所のハウスの運営資金として役立てられています。



交通事故をなくすために

オフィスの近くにある台北市中正国民小学校を2005年から支援。25名の社員が1週間交代で、昼休みに子どもたちが交差点を安全に横断できるように誘導。また、飲酒運転が社会的な問題になっていることから、2012年7月よりチャリティイベント「no drink-and-drive」を開始。全社員でアイデアを出し合い、ラジオや動画の放送、ポスターの掲示などを行って、飲酒運転撲滅のための啓発活動に参加しています。



米国
 Tokio Marine Management

公立小学校の修繕をお手伝い

シカゴの公立学校を支援する「Chicago Cares Serve-a-thon」に参加。同社シカゴ事務所の12名の社員とその家族、友人が参加し、地元住民とともに小学校の壁のペンキ塗りや校庭の補修などを行いました。



米国
 First Insurance Company
 of Hawaii

地域・社会貢献イベントに積極参加

地元地域への感謝をこめて「Inspiring by Example」キャンペーンを実施。1年で100以上ある地域・社会貢献イベントに全社員317人が年間で1回以上参加するという目標を掲げ、達成しました。



地球環境保護イベントに参加

環境NGO世界自然保護基金(WWF)が主催する「Earth Hour」は、世界中の人々が同じ日、同じ時刻に電気を消し、地球環境保護を考える世界最大規模のイベントで、2013年は3月23日に行われました。シンガポールでは東京海上グループから30名の社員が参加し、「発電パッド」の上でダンスを披露。発電された電力を使い、会場内の大型スクリーンで映画が上映されました。また、香港では、3年前からEarth Hourの準スポンサーである現地事務所が、日本人学校にWWFのスタッフを招き、300人以上の生徒に向けて地球温暖化についての環境授業やEarth HourのPRを行いました。

シンガポール
 Tokio Marine Asia

台湾
 Tokio Marine Newa Insurance

東京海上グループでは、現在、世界37の国と地域、456都市で損害保険、生命保険、金融・一般事業を幅広く展開し、お客様の多様なニーズにお応えできる体制を整えています。

海外グループ会社はいずれも、東京海上グループのDNA(共通の価値観)を共有しながら、各地の特性に合わせたビジネスを展開しています。

東京海上グループの地域・社会貢献活動は、「青少年育成」「安心と安全」「地球環境保護」の3つをテーマとしています。このテーマのもと、社員の主体的な参加と、地域・社会貢献活動のノウハウやネットワークを持つNPOとの協働を重視しながら、世界各地で活動を行っています。

これからも地域・社会の一員として、異なる国や地域の文化、習慣の多様性を尊重し、時代の要請に応える地域・社会貢献活動を積極的に推進していきます。

英国
 Kiln Group

ストリートチルドレンの通学支援

創業50周年を記念し、アフリカ・シエラレオネに5万人近くいるとされるストリートチルドレンが、学校に通えることを目指したチャリティマラソン「シエラレオネ・マラソン」の公式スポンサーに。CFO(最高財務責任者)を含む20名の社員がマラソンに出場し、チーム合計で10万ポンド以上の寄付を集めました。また、東京海上ホールディングスからは、ハーフマラソンの優勝商品として郊外の村への小学校建設を支援しました。



※防災クリアファイルは紙媒体のみの付録となります。



↑ いざという時の備えを ↑
クリアファイルにまとめました

防災グッズや地震に備えて記録しておきたいことをクリアファイルにまとめ、小学校での「ぼうさい授業」(P.8)で生徒の皆さんにお配りしています。このたび、本CSRブックレットの付録として同封いたしました。ぜひ、ご活用ください。

東京海上ホールディングス
CSRウェブサイトのご案内

東京海上HD CSR 検索

より詳しい情報・データや各ステークホルダーに対する取り組みなどについては、ウェブサイトに掲載しております。ぜひアクセスしてご覧ください。

(2013年9月更新予定)

http://www.tokiomarinehd.com/social_respon/

人を思い、
社会に貢献しながら、
持続可能な社会の
実現を目指します。



近年、世界各地において、地震・津波、台風などの自然災害が多発しています。2011年には東日本大震災やタイの洪水といった大災害が発生しましたが、昨年、米国でハリケーン・サンディが甚大な被害をもたらしました。当社はグループを挙げて保険金のお支払いなどに取り組んでまいりましたが、これらの経験を通じ、多くの社員が保険事業の社会的意義を改めて認識いたしました。

当社は、これら自然災害リスクへの対応をはじめ、少子高齢化や交通事故を含む広範な社会課題と向き合い、保険会社として社会に貢献してまいります。例えば、東京海上日動の「1日自動車保険(ちょいのり保険)」は無保険運転事故を減らすことにつながる保険です。あんしん生命の「メディカルKit R」は、若年層のお客様にも医療保険の普及を促すことにつながる商品です。また、東京海上日動の「災害早期復旧サービス」は、罹災後の設備修復により事業所の操業中断の短縮を図ることができるサービスです。このような商品やサービスは、いずれも、「人を思い、社会に貢献する

こと」を原点として生まれたものです。このほか、東日本大震災の経験をふまえ、産学連携による地震・津波リスクの実践的研究や社員ボランティアによる「ぼうさい授業」の展開など、社会の防災・減災に貢献できるような具体的なアクションを行っています。

また、地球温暖化の対策では、長期的なコミットメントとして、「1999年から始めたマングローブ植林プロジェクトを100年続けること」を約束し、植林を継続しています。これまでアジアを中心に植林してきたマングローブ林は、実に約8,000ヘクタール(100メートル幅で東京-岡山間に匹敵する距離)の規模にまで達しています。

東京海上グループでは、これからもさまざまなステークホルダーの皆様との対話や協働のもと、世界各地において社会的課題に向けて取り組み、持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年6月
東京海上ホールディングス株式会社
取締役社長

隅 修三



この報告書の印刷工程で使用した電力量(400kWh)はグリーン電力でまかなわれています。

家族で話し合っておくべきポイント

●地震発生時における家族(各自)の役割を決めておきましょう。

・防災グッズや救急箱は、誰が持出しますか。	
・震災時に、誰が、ガス・電気・水道などをチェックしますか。	
・乳幼児や高齢者がいる場合は、誰が誰をサポートしますか。	
・日中に地震が起きた場合、子どもを学校へ迎えに行くのは誰ですか。	
・ペットがいる場合は、誰が救助しますか。	

●事前にメモしておくこと (必要なものはこのファイルに入れておきましょう。)

・家族全員の氏名・年齢・血液型・健康保険証(保険者番号)
※かかりつけ医、常用薬など
・運転免許証(番号)
・銀行口座(銀行名、番号、紛失時の連絡先)
・クレジットカード(会社名、番号、紛失時の連絡先)
・保険(会社名、証券番号、連絡先)
・緊急連絡先(氏名、住所、連絡先) (①家族の連絡先、②遠方の知り合いなど)

●地震に備えてこのクリアファイルに入れておきましょう。

・健康保険証、身分証明書(免許証)のコピー	
・生命(医療)保険、火災保険などの保険証券のコピー	
・メモ(各種連絡先・常用薬などのコピー)、メモ用紙・ボールペンなど	

監修：保田真理 東北大学 災害科学国際研究所
災害リスク研究部門 津波工学研究分野



東京海上日動

防災のポイント (防災グッズ編)

ひじょうもちだしひん 非常持出品

★必ず準備しておくもの

自分で必要なものは、自分で
かならず確保しておこう！

ラジオ

くつ
スリッパ

ソーラー手回し
充電ライトが便利
(ケータイ充電器付き)

着替え

必要に応じて
メガネ・入れ歯

常備薬・救急箱

夜寝るときもそばに！

現金【硬貨も】

笛【ホイッスル】

保険証や免許証のコピー・お薬手帳

自分の家族の状況に応じて
備えておきましょう。

携帯ラジオ

靴・スリッパ

ソーラー手回し充電ライト
【携帯充電器付き】

飲料水

非常食【3日分】

下着・靴下

大小各種・ビニール袋

ティッシュペーパー
トイレットペーパー

防水のライター・マッチ

予備の乾電池

卓上コンロ・ボンベ

生理用品

ケータイ

災害用伝言板

メニューのトップページに
表示されます。

スマートフォン
タブレット

緊急ニュース

地震速報

防災情報

など便利なアプリを
ダウンロードして
おこう！